



NAGOYA UNIVERSITY

2017/3/25

文部科学省委託調査研究 URAシンポジウム

URAシステムを大学等の研究力・ 経営力向上へ活かすには

名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部副本部長
藤巻朗

1. **名古屋大学の指針**
 - ① 名古屋大学の取組
2. **研究支援体制の改革**
 - ① 研究力強化の方針
 - ② 学術研究・産学官連携推進本部の設置
 - ③ URAシステムの高度化
 - ④ 成果
3. **自律するURA**
 - ① URAが自律的に企画・立案、実施した主な取組
 - ② URAによる新たな施策提案(URA-TF)
4. **総括**

1. 名古屋大学の指針

① 名古屋大学の取組

2. 研究支援体制の改革

① 研究力強化の方針

② 学術研究・産学官連携推進本部の設置

③ URAシステムの高度化

④ 成果

3. 自律するURA

① URAが自律的に企画・立案、実施した主な取組

② URAによる新たな施策提案(URA-TF)

4. 総括

名古屋大学の指針

名古屋大学松尾イニシアティブ
NU MIRAI 2020

名古屋大学を世界屈指の研究大学に

Nagoya University Matsuo Initiatives for Reform, Autonomy and Innovation 2020



人類の幸福に貢献する「勇気ある知識人」の育成

国際的にも様々な分野においてもリーダーシップを発揮できる「勇気ある知識人」を育成するため、入学前から卒業・修了に至るまで一貫した教育改革を総合的に実施

- 世界に挑む優れた学生の確保
(個別選抜の改革、アドミッションセンターの設置等)
- 3ポリシー（学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入）の一体的改革
- 国際通用性を高める教育改革
(クォーター制導入、ジョイントディグリー拡充等)

ノーベル賞受賞者輩出など人類の知を持続的に創出



世界屈指の研究大学に相応しく、人類の知の創造に貢献する世界トップレベルの研究の実施と、その環境整備を推進

- 基礎研究「高等研究院」、応用研究「未来社会創造機構」、WPIプログラム「ITbM」等による世界トップレベルの研究推進
- 独創的な研究拠点醸成(展開) (WPI-next等)
- 多様な研究人材の確保と世界の研究リーダー育成
(若手、女性、外国人等)

NU MIRAI 2020



世界の誰もが選びたいくなるキャンパスの実現 アジアと学び世界に挑む人材の育成

国内外から学生・教職員が集まる魅力的キャンパスの実現
アジア・サテライトキャンパス等による戦略的なアジア展開

- 2020年までに
留学生3,000人、外国人教員等650人
海外への留学者数を1,000人 へ
- 留学生受入れプログラムと英語講義の拡大 (G30 NEXT)
- アジア戦略の展開
(アジアサテライトキャンパス、ASEANセンター設置等)

イノベーションへの貢献と社会的価値の創出



世界有数の産業集積地にある基幹大学として、イノベーションを起こして
産業競争力の強化に貢献する研究開発や人材育成を産学連携により推進

- オープンイノベーションのための新しい産学官連携研究開発体制の構築
(未来エレクトロニクス集積研究センター(GaN研究拠点)整備等)
- 社会的価値創成に貢献できる実践的人材の育成
(アントレプレナー教育や産学連携教育の推進等)
- 安全・安心な持続的社會形成への貢献
(減災連携研究センター、産学官民連携モデル構築等)

名古屋大学総長
松尾 清一



シェアドガバナンスをふまえた総長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

- 全学的な組織見直しによる教育研究機能の強化 (工学系、情報系、人文社会科学系、学際系等)
- 財務基盤の強化 (多様な財源の確保 (基金目標100億円、競争的資金、企業との共同研究、病院機能強化等))
- コミュニケーションを重視した効率的・弾力的なリソースの再配分
- 世界・アジアと連携した男女共同参画の推進 (拠点設立、女性教員比率20%、女性管理職の登用推進等)



名古屋大学の取り組み

本日ご紹介する内容

名古屋大学

国民への還元
アウトリーチ

名大発ベンチャー

ベンチャーファンド

Joint Degree

NU Tech

国際会議支援

設備・機器共用システム

アウトカム

新産業創出に向けたイノベーション	知の追求	高度化人材
------------------	------	-------

- ・海外大学
- ・海外研究機関
- ・国内企業
- ・海外企業

共同研究

エンジン

最先端研究開発	高度人材育成
---------	--------

異分野融合

研究力強化

財源

人材源

産学連携

指定共同研究制度

研究支援体制の改革

URA制度 URA-TF

学術研究・産学官連携推進本部の設置

若手研究者育成

- ・国・ファンディングエージェンシー
- ・海外ファンド

本日ご紹介する内容

- ・外国人研究者
- ・名大への留学希望生
- ・社会人
- ・高校生

1. 名古屋大学の指針

① 名古屋大学の取組

2. 研究支援体制の改革

① 研究力強化の方針

② 学術研究・産学官連携推進本部の設置

③ URAシステムの高度化

④ 成果

3. 自律するURA

① URAが自律的に企画・立案、実施した主な取組

② URAによる新たな施策提案(URA-TF)

4. 総括

【基本方針】

● 新たな研究支援体制による研究戦略、知財管理の推進

- 透明性・公平性を堅持し、国内外の優れた若手人材を確保
- 国際連携・異分野融合による世界戦略的研究拠点の育成
- 学内への競争的環境の導入と自主財源投入による基盤強化



【達成に向けた施策】

● 学術研究・産学官連携推進本部の設置

● 研究力の分析

人事・財務制度改革

支援体制強化(Aメニュー)

最先端・若手研究強化プログラム(Bメニュー)

学術研究・産学官連携推進本部の設置

産学官連携推進本部 (H16年度～)

【連携推進部、知的財産部、起業推進部、国際連携部】



産学官連携推進室 (H17年度～)



研究推進室 (H18年度～)



リサーチ・アドミニストレーション室
(H23年度～)



教員による組織



学術研究・
産学官連携
推進本部

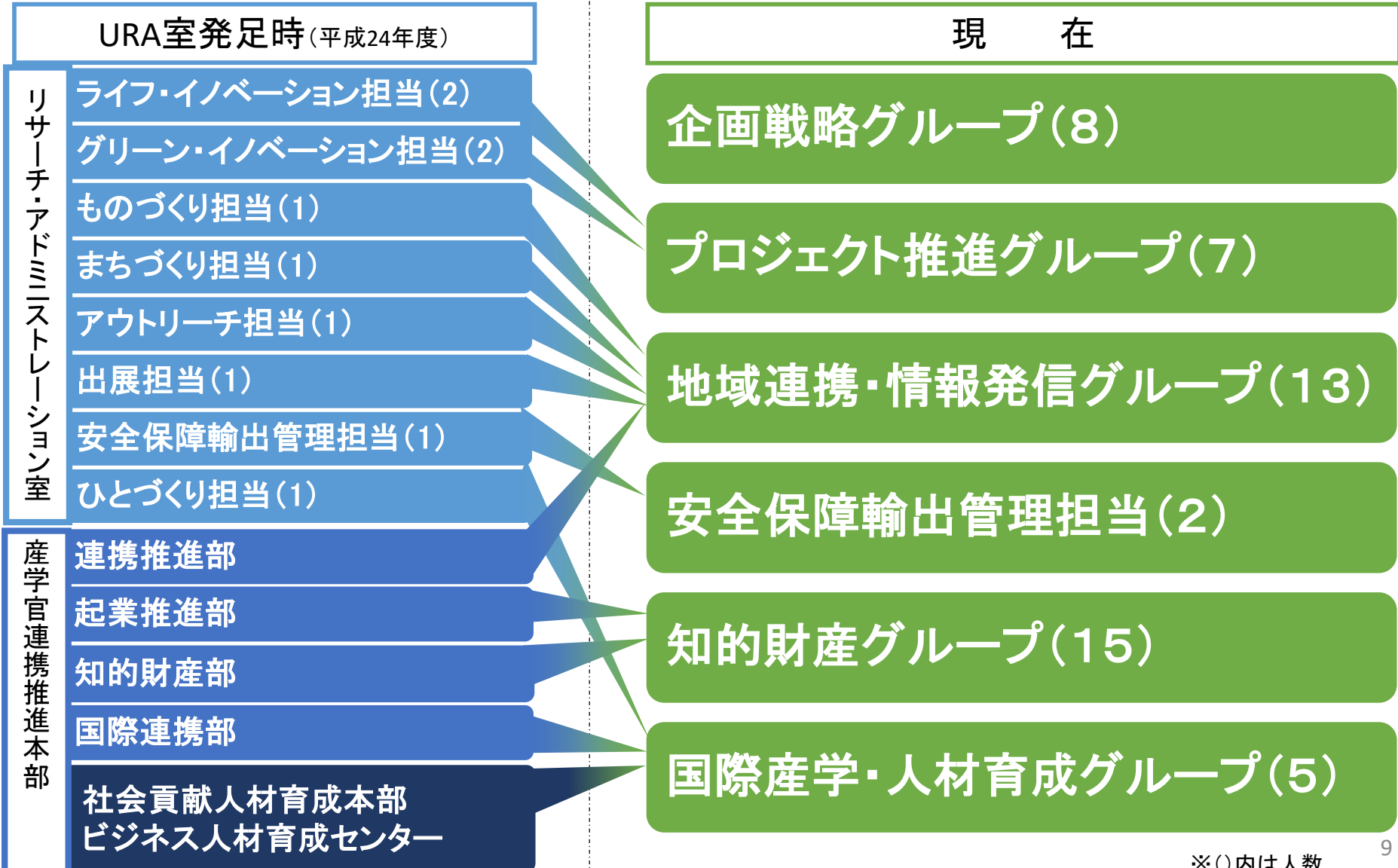
H25年度
(H26年1月)

未来社会創造機構研究支援室
(H25年度～)

学術研究・産学官連携推進本部の設置に伴う URAシステムの高度化【体制】



URA室と産学官連携推進本部で重複していた業務を解消・整理



※()内は人数

学術研究・産学官連携推進本部の設置に伴う URAシステムの高度化【業務】

発足時と比べて、 業務の高度化を実現

現在（+主に拡大した業務）

URA室発足時（平成24年度）

大学の研究力分析、研究施策の企画・立案 **新規**

- + 新たな学術研究・産学官連携施策の企画・立案及び実施
- + 研究支援DBの構築と学内における研究の現状分析
- + 科学技術イノベーション政策の情報収集
- + 拠点型研究プロジェクトの形成支援

研究プロジェクトの企画・立案・運営 **高度化**

- + 産学協同研究部門・講座の制度設計・運営・管理
- + 名古屋大学研究Web版シーズ集 unite の作成・運営

産学官・地域・国際連携の深化に係る企画・立案 **高度化**

- + 高大連携推進支援
- + 国際的情報発信の強化

安全保障輸出管理、利益相反マネジメント等に係る
戦略企画、調整 **高度化**

- + 国際化にむけた基盤整備
- + 本格的産学連携を見据えたリスクマネジメントの体制整備

研究費の申請支援

- 大型研究プロジェクトの企画提案
- 外部機関との連携支援
- 申請書の作成支援

研究成果の発信

- 市民向けのアウトリーチ活動
- 技術移転や共同研究の推進
- 技術シーズの展示会等への出展

法的・倫理的支援

- 利益相反マネジメント、輸出等に関する安全保障貿易管理の基盤整備

リサーチ・アドミニストレーション室

学術研究・産学官連携推進本部の設置に伴う URAシステムの高度化【業務】



旧産学官連携推進本部業務を引き継ぐとともに、高度化を実現

URA室発足時 (平成24年度)

現在 (+主に拡大した業務)

URA室

URA育成

- URAのスキルアップ研修と、全国・東海地区のURAネットワーク構築

URAの自律的取組の推進

高度化

- + タスクフォースの実施

産学官連携推進本部

知的財産権の取得

- ・特許等の知的財産権の取得支援
- ・共同研究契約書のレビュー
- ・知的財産権教育

知的財産権に係る戦略企画、実行

高度化

- + 知的財産権活用に係る大学全体の戦略企画・実行
- + 知的財産権の企業へのライセンス・譲渡等技術移転
- + 大学発ベンチャー創出支援(ベンチャーファンド制度等)

NU-Techを拠点とした技術移転

- ・国際産学連携を見据えた技術移転

国際的な研究連携の促進に係る企画・立案

高度化

- + 国際拠点形成支援
- + NU-Techの教育・研究支援拠点化

博士後期課程学生やポストドクターのキャリア・就職アドバイス

- ・ビジネス人材育成センター (B-jin)による集中的支援

博士後期課程学生やポストドクターのキャリア・就職アドバイス、活躍促進

高度化

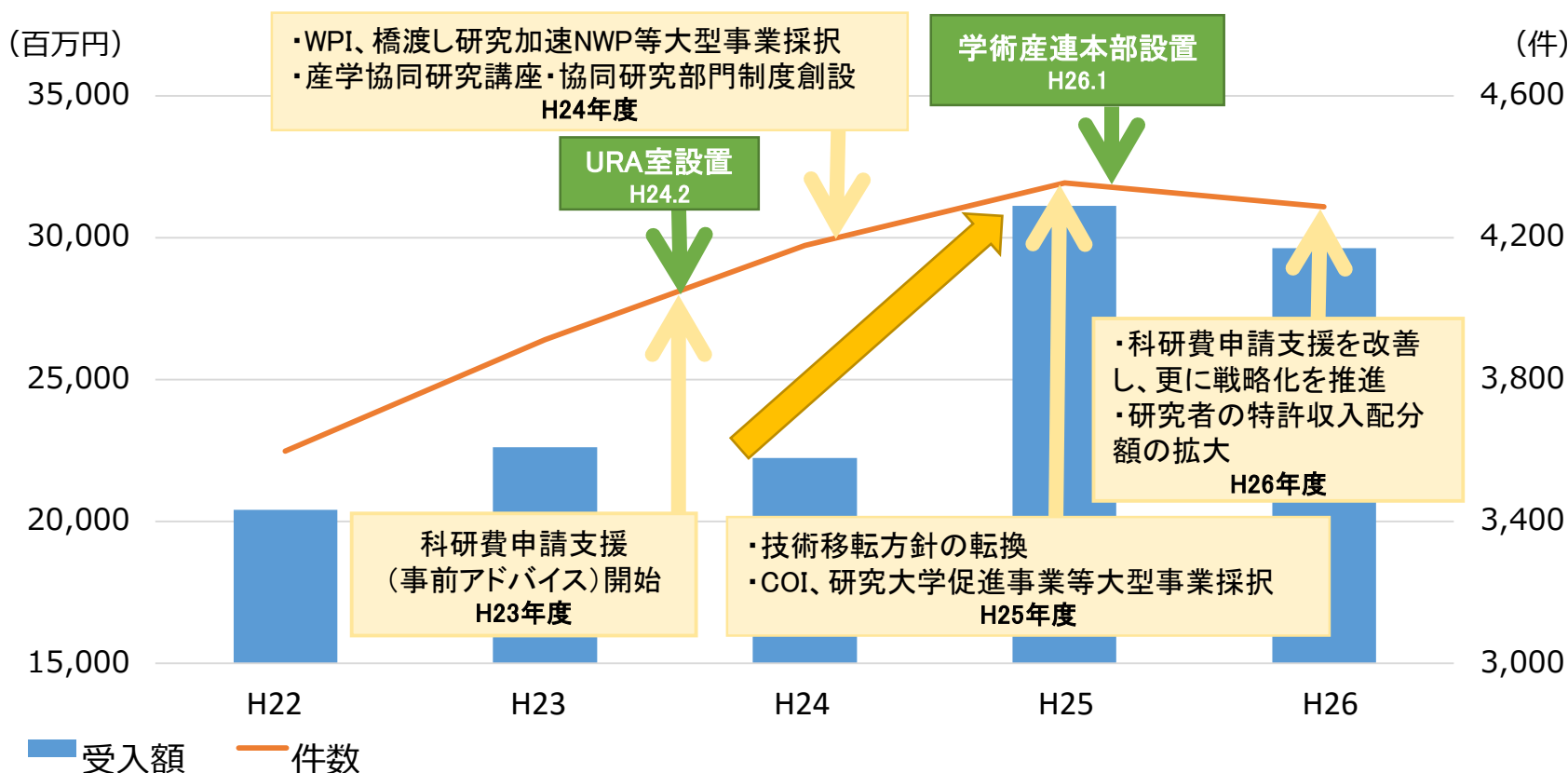
- + イノベーション人材の育成
- + 人材育成コンソーシアム(北海道大学・東北大学)形成による次世代研究者支援

学術研究・産学官連携推進本部の設置による 成果(1)



1. 外部資金(全体)の交付額・件数の推移

- H26年度は金額ベースで +30%増(+70億円)、件数ベースで+10%増(+370件) [H23年比]
- 学術研究・産学官連携推進本部の活動等により、交付金額・件数が共に大幅向上。



外部資金： 科研費、共同研究、受託研究、政府補助金等、受託事業、寄附講座・寄附研究部門の交付金額を指す

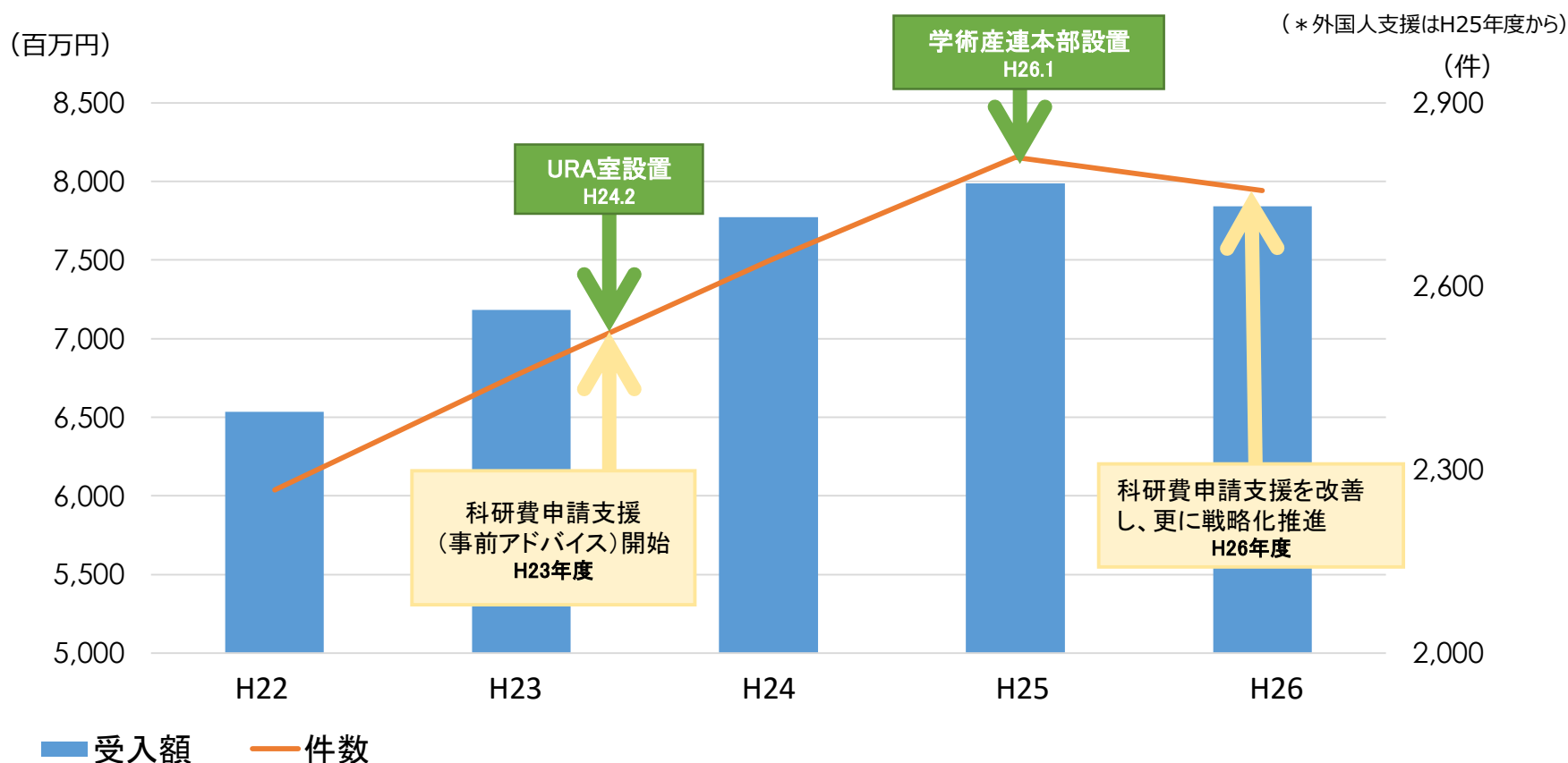
(出典：名大プロフィール及び名古屋大学資料)

学術研究・産学官連携推進本部の設置による 成果(2)



2. 科学研究費補助金の交付額・件数の推移

- H26年度は金額ベースで +10%増(+7億円)、件数ベースで+10%増(+298件)[H23年比]
- H26年度に大型種目・若手・外国人支援*を重点化、より戦略的な支援を実現。



注: 金額には間接経費含む。金額・件数共に新規+継続の数値。研究分担者による受入件数・金額含む。

3. 科学研究費補助金 申請支援の効果

- 科研費申請支援により、採択率が全国平均と比較して+約20%増加。
- 支援した申請者数は、H26年度に+100%増加(+27人)[H23年比]、H27年度はさらに増加の見込み(H27.9.25現在で83人)。
- 外国人研究者に対する申請支援の開始により、英文での申請者数が増加。

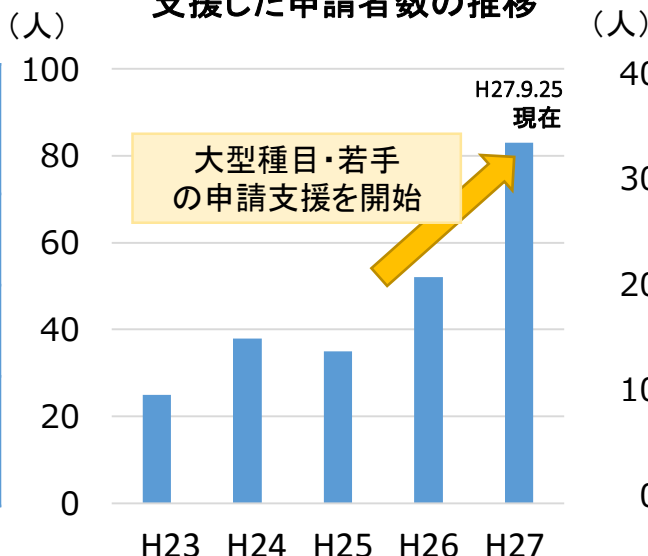
採択率の比較

H24-H27年度 科学研究費補助金		採択率平均 (%) [最小値～最大値,%]
全国		28 [27～29]
名古屋大学	全体	37 [33～40]
	うち、学術産連本部が申請支援をしたもの	47 [36～56]

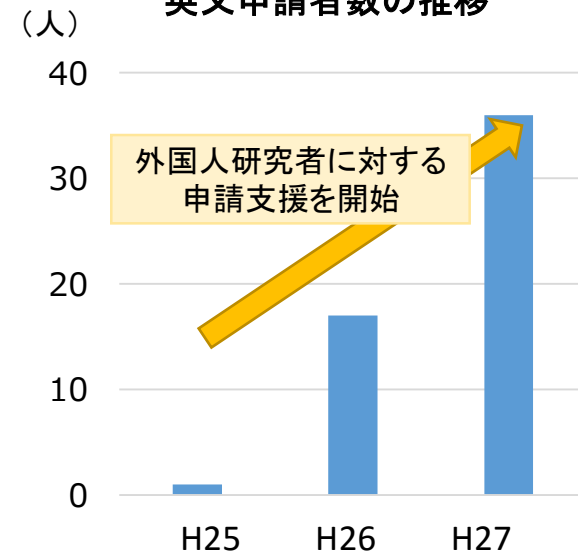
(全研究種目平均)

(出典: 文科省HP及び名古屋大学資料)

支援した申請者数の推移



英文申請者数の推移



(出典: 名古屋大学資料)

1. 名古屋大学の指針
 - ① 名古屋大学の取組
2. 研究支援体制の改革
 - ① 研究力強化の方針
 - ② 学術研究・産学官連携推進本部の設置
 - ③ URAシステムの高度化
 - ④ 成果
3. 自律するURA
 - ① URAが自律的に企画・立案、実施した主な取組
 - ② URAによる新たな施策提案(URA-TF)
4. 総括

URAが自律的に企画・立案、実施した主な取組

開始時期	取組概要
平成23年度	名古屋大学URA室 発足
平成23年	研究力強化 科研費申請支援、大型研究プロジェクト申請支援を開始 情報発信 「あいちサイエンスフェスティバル」、「オープンレクチャー」、「NU-Research」を開始
平成24年	産学連携 産学協同研究講座・産学協同研究部門の創設 人材 URA研修開始
平成25年度	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 発足
平成25年	研究力強化 科研費の外国人申請支援を開始 産学連携 学術産連本部が「出願～技術移転まで」実施する方針に戦略的転換 産学連携 特許権を積極譲渡する方針に戦略的転換 産学連携 「技術相談」の仕組みを運用開始
平成26年	研究力強化 科研費の申請支援を改善(大型・若手個人の申請支援開始) 研究力強化 研究支援データベースシステムの構築・運用開始 研究力強化 大学ランキング分析 開始 産学連携 特許収入の研究者への配分額を拡大する方針に戦略的転換 情報発信 「名大研究室の扉 in河合塾」開始 情報発信 UNITE 改訂・発行

URAによる新たな施策提案(URA-TF)【全体像】

<概要>

- 大学の研究力強化、研究マネジメント向上を図るための新たな施策を**URA主導で提案**。
- 関係部局との議論等を行い、**執行部から承認を得た上で、施策を順次実施**。
- 同施策に関する**関係者との十分な討論を通じて、本学におけるURAの取組の理解促進を図る**。

施策1 「研究マネジメント強化に資する研究・産学連携力の
分析と活用」

施策2 「戦略的な研究企画・立案制度の検討」

施策3 「知的財産権・研究成果の積極的活用策」

施策4 「イノベーション教育とアントレプレナー育成」

施策5 「名古屋大学のアジアネットワークと連携した
国際産学連携の環境整備」

施策1 「研究マネジメント強化に資する研究・産学連携力の分析と活用」

■ 目的

大型研究プロジェクトの立ち上げや学内資源配分に必要なデータを、IR本部と協働して収集・分析し、執行部に新規研究プロジェクトを提案。

IR本部 (2016年4月設置)

教学、財務等、大学の機能全体を網羅した分析・評価および、それらのインデックス化。

第3期中期目標・計画に応じた、全学、部局単位での現状把握と分析

定期的な分析・評価による目的、課題の共有化、改善等

情報共有

URAによる活動

研究力・産学連携力および関連する経営基盤を中心に情報を収集・分析。

社会・経済的課題に対するニーズに対して、**部局・分野横断的**に情報収集。本学の強み・特色の顕在化。

情報収集・分析をもとに、**研究プロジェクト、学内資源配分**を提案。

研究プロジェクト推進による**成功事例や課題を抽出**。新たな指標分析・新プロジェクト等への反映。

本学の優位性と動向、国の動向を分析。大型予算獲得に向け、複数の部局に跨るチームフォーメーションを実施。現在、新規プロジェクト化を進めている。

施策5 「名古屋大学のアジアネットワークと連携した国際産学連携の環境整備」

■ 目的

- 外部資金獲得強化に向け、学術研究・産学官連携における交流の深化
- Reputationの向上を目指し、対象国毎のニーズや文化に即した情報発信の強化
- 卓越研究者のリクルート強化のための環境の整備

■ 方法

学術のレベル、産学連携の基盤を持つタイでまずはトライアル。成功モデルを他国へ展開。

• アジア向け情報発信強化

(アジア諸国との交流の深化、協働の切っ掛け作り)

タイ人が興味を持つ学術キーワードを事前に調査し、タイのニーズや文化に最適化させた研究力発信パンフレットを刊行。(“NU Global Challenge, Hand-in-Hand with Asia Vol1. Thailand”)

研究者・企業に、本学の強みをアピールし、共同研究の立上げを目指す。

• 研究力強化ネットワークの拡充

(国際共同研究・産学連携の基盤の確立)

【拡大】次世代パートナーである本学若手OBへのアクセスルートの構築。

【強化】海外交流グラントと絡めた強化

(例: 研究拠点形成事業 Core-to-Core Program 申請での協働)



名古屋大学のURAシステムのこれから

研究力強化フェーズの先に、URA主導による『**施策立案・実行**』を見据える。 ➡ 『**経営力強化フェーズ**』へ更なる高度化

